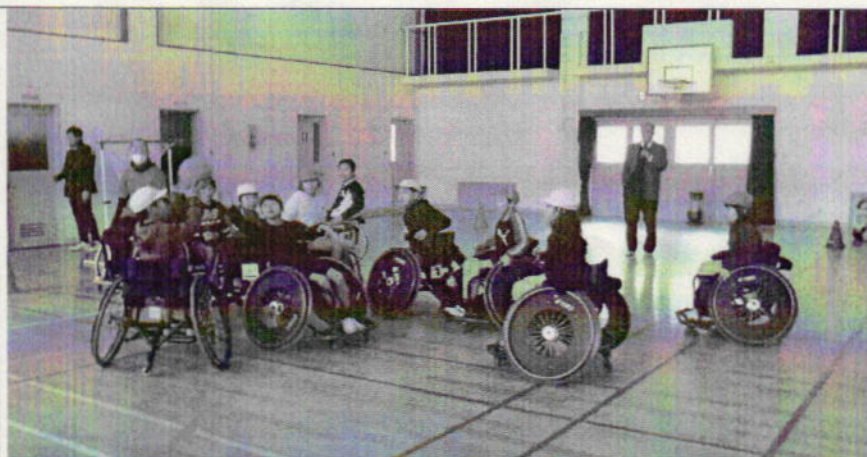


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 京都市 】

1実践テーマ	【障害のある人たちの参加するパラリンピックについて知ろう(自分たちも体験しよう)】
2実施対象者	京都市立小栗栖宮山小学校 4年1組児童 22名 4年2組児童 22名 4年そよかぜ学級児童 1名 計 45名
3展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (車いすバスケットボール体験) ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	1パラリンピックについて知り、あきらめないことの大切さや限界に挑戦することの尊さについて考える。 2「車いすバスケットボール」の経験を通してパラスポーツを身近に感じ興味をもつ。 3工夫された競技の体験を通して、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さについて考える。
5 取組内容	① 事前授業 (2H) ・オリンピック、パラリンピックについて知る。 ・競技の意義や目的、種目について知る。 ・競技をするための様々なルールの工夫や道具の工夫について知る。 ・車いすバスケットボールのルールについて知る。 ② 車いすバスケットボール体験 (2H) ・競技用車いすの説明を聞く。 ・競技用車いすの扱い方について知る。 ・車いすバスケットボールの体験をする。 ・選手の体験談を聞いて感想や質問を言う。



③ 事後授業（2H）

- ・選手の行動や努力を見て学んだことを発表する。
- ・今の自分ができていないこと、できていることを考える。
- ・自分にできること
- ・授業を通して学んだことを標語にする。

④ 宮山タイム発表（5M）

- ・これからの自分に活かしていくこと

6 主な成果

- ・黙っているだけではなく、言葉や行動で表そうとする児童が増えたこと。
- ・今までたくさんあきらめていたことに対して、バスケットボール選手の体験談を通して自分には、まだまだ力が出せるんだということに気づける児童が多かったこと。
- ・スポーツとして偏見なく限界に挑戦することの大切さを学べたこと。
- ・一生懸命に頑張る人の美しさに気づけたこと。
- ・パラアスリートたちが、目標にむかって努力する人、オリンピックと同じで、一流のアスリートであるということに気付けた。
- ・試合をすることで、車いすを操る難しさを感じるとともに、パラスポーツの楽しさも味わえた。もっとやりたいという声も多数あり、パラスポーツへの興味が広がった。
- ・育成学級児童については、自分の障害と向き合い、自分の課題やこれからの自分の生き方について深く考えることができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。

7実践において工夫した点（事業の特色）

- ・体の一部分に目がいってしまう児童が多かったが、動きや技、表情に着目させることで、努力すること、挑戦することの美しさを学ぶことができた。

8主な課題等

- ・自由な発想・発言からパラスポーツへの理解や認識を深めていきたいが、障害のある児童も授業に参加する場合は特に配慮が必要である。
- ・体の不自由な人への声のかけ方や言い方等、相手の立場になって考えることは、まだまだ難しい面が見られる

9来年度以降の実施予定

授業を通して子供たちの大きな変容が感じられたので今後も是非続けていきたい。